

# 芸術と社会(学)

「芸術のための芸術」とは異なる、さまざまなかたちで社会と関係をつなぐ現代の芸術。創造の現場では、紛争、社会問題、政策や運動との関わりの中で種々のコンフリクトが生じています。この日は、そうした現場と大学(学問)とを往還しながら考察を続けている方々とともに、これからの芸術と社会の関係について話し合います。

日時 2008年11月1日(土) 14:00~18:00

場所 大阪大学文学部(豊中キャンパス) ~~中庭会議室\*~~



★報告1 (14:00-14:55) 石松紀子 (九州大学大学院/福岡アジア美術館コーディネーター)

「80年代イギリスの展覧会にみるアフロ・アジア系アート」

★報告2 (14:55-15:50) 福井令恵 (九州大学大学院/立命館アジア太平洋大学非常勤講師)

「北アイルランドの壁画と紛争経験 —壁画のある場から考える」

★報告3 (16:05-17:00) 毛利嘉孝 (東京藝術大学准教授)

「第三次世界大戦下の芸術 —北九州国際ビエンナーレを手がかりに批判的な芸術形式を考える」

★全体ディスカッション (17:00-18:00)

コメンテーター: 水嶋一憲 (大阪産業大学教授)

進行: 吉澤弥生 (大阪大学グローバルCOE 特任研究員)

\*文学部、経済学部、法学部の建物に囲まれた「中庭」内にあるプレハブ造りの会議室です。

主催: 大阪大学グローバルCOEプログラム「文化芸術の公共性と社会的コンフリクトの研究」+「横断するポピュラー・カルチャー」(コンフリクトの人文学国際研究教育拠点)

お問合せ: 吉澤弥生 (yoshizawa@hus.osaka-u.ac.jp)

